

秋芳洞調査事業および新空間の発見について

村上 崇史 (MURAKAMI, Takashi) 美祢市立秋吉台科学博物館

山口ケイビングクラブ (山口県在住)



写真3 (仮称)大回廊(後藤聡氏撮影)

背景

秋芳洞は国の特別天然記念物に指定された日本を代表する洞窟です。総距離は2010年4月時点で8,850m + (8,856.6mから切り捨て)とされ [1]、最初の1km程が観光コースとして公開されています。観光コースの千畳敷北東端から北東約500m地点の琴ヶ淵で一旦水没し、途中第七新洞などを挟んで美東町極寒山に開口する葛ヶ穴まで続いています。洞口から普通に歩いて探検できるのは琴ヶ淵までで、その区域の長さは諸説ありますが、約1,800mとされています [2]。何故諸説あったかと言うと、この区域の測量図の殆どが平板測量であり [3, 4] (以下実測図)、水平距離でしか長さが分からなかったためです。これに風穴の推定値140mを加えた1,940mが琴ヶ淵までの長さとして算定されていたと思われます。琴ヶ淵から先の中洞窟部については1970年代から1990年代にかけて盛んに潜水調査が行われ、コンパス測量による距離が追加されていきました。手元にある資料をひも解くと、大体以下のような流れで距離が伸びていったようです (図1)。第一・第二玉串洞：2,140m [5] (風穴の140mを追加)、第三新洞：2,480m [6]、第四・第五新洞：3,100m [7]、第六・第七新洞：5,900m [8]、超第七新洞：7,000m [9]、清河新洞・ビッグガーデン：7,500m [10]、葛ヶ穴連結：8,790m [11]、葛ヶ穴上流部測量：8,850m [1]。因みに、発見と引用元で時期が違っているのは、発表当時の文献が入手できず、新聞報道での「この発見の前の長さは何m

といった記述に依拠したためです。それぞれの正しい文献をご存知の方、是非ご連絡下さい。

秋芳洞調査事業

さて、琴ヶ淵までの長さは1,940mと算定されているらしいことが分かりました。しかし、実測図作成後に発見されたエンゼルパイ支洞やエレベーター支洞、ガントレット支洞など (図2) の取り扱いが不明な上、実測図に描かれていない空間も多数ありました。そのため私は、秋芳洞の実際の長さは一体どうなってるんだ?と、悩ましい日々を送っていた訳です。そこで、一旦この区域の距離はなかったことにして全部測り直しちまえばスッキリするんじゃないか? と思い至り、2014年4月、試しに黄金柱まで測量してみたところ、従来言われていた距離よりもずいぶん長くなりました。これに気をよくして補助金を申請し、2016年7月から未公開部の再測量を始めた次第です。調査員の主な所属団体は、山口大学洞穴研究会、秋吉台科学博物館、山口ケイビングクラブ、日本洞窟学会企画運営委員会、カマネコ探検隊などで、九州大学探検部や佐賀大学探検部の学生さんにも手伝ってもらいました。

結論から言いますと、測量全然終わってません。2017年10月までのところでは確実な測線延長距離は、秋芳洞正面入り口 (瀧穴) から琴ヶ淵までで3,785.8mです。ということは、 $8,856.6m - 1,940m + 3,785.8m = 10,702.4m$ が現時点での秋芳洞の長さということになりそうですね。